

# 社会保険の適用拡大、最低賃金上げ重なる

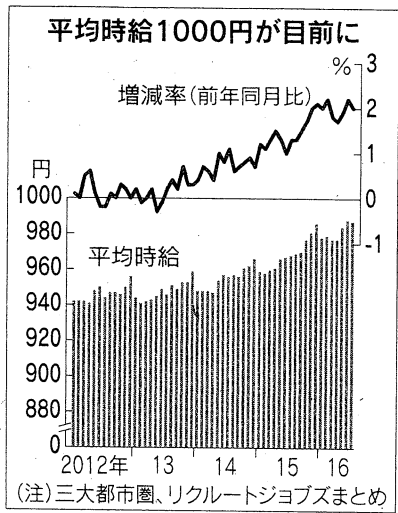
## 真相深層

パート・アルバイト賃金が今秋、大幅に上昇しそうだ。年末の繁忙期に向けた人手確保が始まるなか、10月に社会保険の適用拡大と過去最大の最低賃金の引き上げが重なるためだ。時給相場は1000円以上が定着する見通し。非正規の待遇改善が着実に進む一方、負担の増える採用企業の間では「10月危機」との声も上がる。

「社会保険の適用に合わせて、週25時間だった勤務時間を16時間に減らすことにした」と中堅スーパーのいなげやで働く東京都荒川区在住の女性(54)はいう。収入の減少は痛い、家族の介護もあり勤務時間を減らすことにしたという。

年収130万円未満の短時間労働者は、社会保険(健康保険や厚生年金)の対象外で保険料を払う必要がなかった。一部はこの「130万円の壁」

# パート時給 秋に急上昇



### 人手不足が加速

130万円近く稼いでいた人の中には保険料を払って手取りが減るなら勤務時間を減らして収入を抑える方が合理的だと考える人もいる。手取りが減らないように、逆に勤務時間を増やす人は少数派だ。いなげやの集計ではパート従業員の約4

分の1が適用拡大の影響を受けて、うち58%が労働時間を減らす予定だ。今年、新たに社会保険の対象となる人は厚生労働省の推計で25万人にのぼる。学生は適用除外となるため対象者の多くは主婦層だ。会社員の妻など「第3号被保険者」の該当者は10万人程度とみられる。

# 1000円時代が到来 消耗戦に

リサーチセンター長)。既に主婦パートの多いスーパーや飲食店では追加の募集が増え始めている。比較的、主婦パートの少ない工場や大規模量販店でも「秋から本格対策に動くことになりそう」(求人広告サイト運営のディップ)。採用競争の激化は賃金水準の上昇圧力になる。

「最低賃金を3割が下回った。道内を中心にコンビニ」「セイコーマート」を展開するセコマ(札幌市)は、「いまの給与水準だと5割以上のパート従業員が最低賃金に達しなくなる」という。

### 外食など負担感

外食店など24時間営業の店は特に負担感が強い。深夜割増金は通常の時給に一定の率をかけて計算する。昼間の通常賃金を上げた場合、深夜の賃金の引き上げ額は計算上さらに大きくなるためだ。また夏や年末に募集が増えるイベントスタッフも「最低賃金に近い募集が多い」(都内のスタッフ派遣会社)。

人手不足が深刻な介護・保育業界は無資格でできる仕事をパート・アルバイトに任せる例が増えている。時給は最低賃金を上回る場合が多いが、「長期的には他業種との競争でますます人材確保が難しくなる」(福祉人材サービスのニッソーネット「大阪府」)との声もある。

リクルートジョブズのまとめた三大都市圏(首都圏、東海、関西)のパート・アルバイト募集時平均時給は上昇傾向が続き、7月に前年同月比2.0%増の987円だった。毎年、時給は年末の繁忙期に向けて上がる傾向がある。今年の上昇ペースが加速し「早ければ年内に1000円を超えそうだ」(同社)。

「時給の上昇に合わせて商品の付加価値や販売価格を上げるのが本来あるべき姿」(anの上土達哉編集長)。しかし消費費は全般的に伸び悩み小売りや外食の店舗間競争は激しい。デフレ再燃も指摘される中、値上げも一筋縄では行かず、しわ寄せは企業に重くのしかかる。(龍元秀明)